巻　頭　言

学　長　　安　藤　恒三郎

東日本大震災および福島原発事故から４年が過ぎました。現在も多くの方が避難生活を余儀なくされていることに心を痛めます。復興事業が継続されていますが、本学の学生も毎年夏休みを利用して自ら手を挙げて被災地でのボランテイア活動を行っております。

また、学生たちは、カンボジアで国際ボランテイア活動を行う一方、豊田市のまちつくり提案事業化に応募して、豊田市在住外国人を対象にした防災キャンプ事業などを進めています。彼らの活動は「人間を救うのは人間だ」という赤十字の人道精神そのものです。私は、彼らの活動に心から敬意を表し、赤十字の一員であることに誇りを感じています。

本年４月から、大学院修士課程に、赤十字の看護大学として待ち望んでいた災害看護学領域を創設することができました。高度な看護実践はもちろんのこと、優れた研究成果が生まれることを期待しています。本紀要では、2012 年の第７号、2013 年の第８号に引き続き東日本大震災の特集「東日本大震災の経験と、今後の災害への取り組み」が組まれており、大学院修士課程災害看護学領域の創設に相応しいタイムリーな企画であると思います。また、いろんな分野で、総説、原著、研究報告など多くの論文を投稿していただきましたので、ぜひご一読ください。

大学の学生教育は教員の研究成果によって裏打ちされます。今後とも優れた研究業績が本紀要に発表されることを期待しています。